

リニア中央新幹線駅周辺整備計画の検討について

1 基本的な考え方

- (1) リニア中央新幹線の開業により、国内外との交流の拡大、移住・二地域居住人口の増加、地域産業の振興等が期待されるが、そのようなリニア整備効果を伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすためには、広域的・総合的な観点から、交流人口の拡大と地域振興につながる施設・機能の検討や二次交通アクセスの強化についての検討、民間資本を呼び込むための都市整備や土地利用・都市計画についての検討等が必要である。
- (2) 平成 27 年 6 月にまとめた「リニア駅周辺整備基本構想」（以下「基本構想」という。）においても、同様の視点から、目指すべきリニア駅の実現に向け検討すべき項目やリニアの整備効果をより広域的に波及させるための検討項目を多岐にわたって言及しているが、それらの具体化に当たっては、「リニア駅周辺整備検討会議」（以下「当検討会議」という。）にテーマ別部会を設け、専門的に検討していくこととしたところである。
- (3) 当検討会議では、広域的・総合的視点を踏まえた検討が行えるよう、有識者や各種団体の代表者に委員として参画していただいているが、具体的な議論が基本構想において「駅周辺整備を検討するエリア」とされた区域（以下「整備予定区域」という。）を如何に整備するかという点を中心に行われることから、より広範な地域を対象とした地域振興策を検討する必要があるのではないかという指摘も頂いているところである。
- (4) この点については、長野県が中心となって「伊那谷自治体会議」が設置され、これまでも「リニアバレー構想（骨子）」を取りまとめる等、リニアを活かした地域づくりについて検討が進められてきている。
- (5) 当検討会議における検討経過・検討内容については、随時、「伊那谷自治体会議」に報告することとしているところであり、今後とも、両会議が連携して検討を進めていくこととする。（資料 2 - 2 参照）

2 当検討会議のテーマ別部会の進め方について

- 当検討会議に設置する以下の 4 つのテーマ別部会においては、整備予定区域を主な検討対象としつつも、常に「リニア整備効果を伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすためにはどうすればよいか」を基本的な視座として議論していくものとする。
- 各部会の検討内容については、長野県及び上下伊那の市町村や広域連合とも調整を重ねながら、平成 28 年度内に定めることとしている基本計画に盛り込んでいくこととする。また、前述のように、当検討会議を通じて伊那谷自治体会議に随時

報告し、幅広い視点から議論を重ねていく。

○なお、飯田市においては、各部会での議論の内容を、適宜、次期総合計画に反映していくとともに、並行して、リニア駅周辺を始めとする市内の土地利用計画・都市計画について長野県と調整しながら、検討を進める。

(1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会

<ミッション>

リニア長野県駅が、乗降客がスムーズに乗り換えを行うことができる「高度なトランジットハブ」としての役割を果たすことができるよう、リニア駅周辺の交通動線について技術的な検討を行い、整備予定区域を主な対象に、駐車場、交通広場、道路等の形状や位置等について提案する。また、JR飯田線乗換新駅についても検討していく。

<主な検討内容>

平成27年度においては、整備予定区域における交通広場、駐車場、道路等について、現地の地形やJR東海が進めるリニア本体工事、長野県が進めるアクセス道路整備等の状況も踏まえて技術的な観点から検討を行い、複数の配置案を示しながら、整備予定区域に確保すべき整備エリアを提案する。

平成28年度においては、リニア本体工事、アクセス道路等の進捗状況に合わせて検討内容の具体化を進める。

(2) 魅力発信部会

<ミッション>

リニア整備効果を観光・消費の面で伊那谷地域・長野県内に広く及ぼすため、効果的な情報発信や、地域産品の購買意欲を高める方策（ソフト）及び必要な施設整備（ハード）の在り方について検討を行う。

<主な検討内容>

平成27年度においては、基本構想において整備区域に整備すべきとされた魅力発信施設の在り方について、他地域の事例（新幹線駅の例のみならず、道の駅やアンテナショップ等も含む。）を参考としながら、備えるべき機能や規模等のイメージを検討し、整備予定区域に確保すべき整備エリアの検討の参考となる提案を行う。

平成28年度においては、魅力発信施設の内容について具体的な検討を進めるとともに、整備主体・運営主体の在り方についても検討する。

(3) 環境・景観部会

<ミッション>

リニア長野県駅を利用する乗降客が「伊那谷らしさ」を感じるとともに、周辺住民の皆さんが親しみを感じ愛着を持てるような駅空間のデザインや周辺環境・景観の在り方、その実現手法等について検討する。

併せて、リニア駅周辺における再生可能エネルギーの利用やゼロエミッション、低炭素化等の取組の在り方についても検討する。

<主な検討内容>

部会は可能な限り早期に立ち上げることとし、平成28年度にかけて、「伊那谷

らしさ」とは何か、それを表現するためには具体的に何をすべきか等について検討する。

なお、この部会の検討内容は、リニア中央新幹線開業まで（あるいは開業後まで）継続して取り組んでいくべき事項が多いことから、継続的に取り組むための組織・仕組みの在り方についても検討し、平成 29 年度以降に引き継いでいくことを念頭に置く。

（４）交流人口拡大部会

＜ミッション＞

伊那谷自治体会議において議論されるリニア中央新幹線の整備効果を活かした地域振興策の検討を受け、この地域らしい「おもてなし（迎賓）」の在り方やMICE機能の可能性について検討を行う。

＜主な検討内容＞

伊那谷自治体会議における議論と連動しながら、交流人口の拡大の方策について検討する。

※MICE機能

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称